

第2期産業振興計画高知市地域アクションプランの取り組みの総括

取組の成果と今後の方向性

◎総評
高知市地域では、全32項目の地域アクションプランについて、実行支援チームをつくり、事業推進に向けた支援を行ってきた。

農業分野では、県下随一のキュウリの産地であるJA高知春野が、キュウリの代表的な病気である黄化エンソ病対策として、天敵利用技術の普及を図るとともに、増収のため、炭酸ガスを施用する取り組みなどを行っている。また、JA高知市の農産物加工施設では産振補助金の活用により加工機能が強化されたほか、新商品の開発や人材育成にも積極的に取り組んだことにより、販売額を順調に伸ばしている。

商工業分野では、高知県産の竹を使った自動車用ハンドル素材や竹シートの製造において、原材料の竹の供給も安定し、順調に取引先への納入がなされているほか、アウトドア用品など他分野への新たな販路拡大に向けた取り組みも進んでいる。

観光分野では、近隣地域等との連携により滞在型・体験型観光を推進する取り組みにおいて、城西館が行う「とさ恋ツアー」の観光商品づくりを支援することにより、県内各地で商品開発が進んだ。また、中心商店街、城西館、高知おせっかい協会などの民間事業者が主体となって外国人観光客の受入態勢を強化する動きが活発化している。

※地域アクションプランによる雇用の創出 第2期（H24～H27） 30人
うち産業振興推進総合支援事業費補助金関連 7人

◎各分野の取組の成果と今後の方向性

- 農業分野
（キュウリ） ・高収量、高品質化等の対策が進み、販売額もほぼ目標とする水準を維持しており、今後は、新しい防除技術の確立と普及を図る。
（四方竹） ・加工施設の整備により生産の安定化が図られてきた。今後は、加工能力の改善とブランド化に取り組む。
- 林業分野
（森の工場） ・森の工場の面積が拡大し、作業道の整備も進んだことにより、素材生産量の拡大を図っていく。
- 水産業分野
（弘化台ブランドの創出）
・主力となる商品が完成し、量販店や業務用食材としての販路開拓を行ってきた。今後は新たな分野への販路を拡大する。
- 商工業分野
（県産竹材を用いた製品展開）
・竹ハンドル等への材料供給の安定出荷体制が確立された。今後は、新規分野への製品の展開を図る。
- 観光分野
（よさこい） ・高知よさこい情報交流館の整備と本家よさこいの魅力向上に取り組んだ。今後は、本家よさこいの地位の確立とブランド化を図る。
（土佐の偉人）
・坂本龍馬や長宗我部元親などのイベントを実施してきた。今後は、関連イベントの充実とゆかりの地の魅力向上に取り組む。

主要な指標及び目標

項目	出発点 (2期計画策定時)	目標(H27)	実績(H27)
主要農産物の販売額 (キュウリ、グロリオサ等 8品目の合計)	H22:76.0億円	H27:80.5億円	H27:58.5億円
森の工場における素材生産量	H22:1,707㎡	H27:4,000㎡	H27:2,749㎡
農産物加工品の販売額 (夢産地とさやま開発公社、 スタジオ・オカムラの合計)	H22:0.1億円	H27:1.7億円	H27:1.8億円 (見込)
商店街の通行量(夏期・休日)	H22:5.8万人/日	H27:5.8万人/日	H27:5.2万人/日
宿泊者数	H22:123万人 (参考H21:99万人)	H27:112万人	H27:92万人

主な支援策の活用状況(H24～H27)

- 産業振興推進総合支援事業費補助金 4事業 7,761千円
- 観光拠点等整備事業費補助金等 6事業 36,936千円
- 専門家の派遣（産業振興アドバイザー事業） 9件、延べ20回

● 生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出 【高知市】

岡崎牧場 <高知市酪農農業協同組合>

取組の内容

- ・安心・安全な生乳加工品の製造・販売
- ・観光地や教育の場として牧場を活用
- ・新商品の開発



主な成果

- ・酪農教育ファームの受け入れ増加 353人(H22)→1,214人(H27)
- ・店舗の販売額 8,173千円(H22)→13,176千円(H27)

今後の方向性

- ・新規顧客の開拓とリピーターの確保
- ・顧客ニーズに合った商品開発

● 県産竹材を用いた新規分野への製品展開 【高知市】

自動車用竹ハンドル <楸コスモ工房>

取組の内容

- ・竹製自動車ハンドルの素材の製造開始
- ・竹シート、竹ブラシ等の製造開始
- ・新たな分野への販路開拓

主な成果

- ・須崎地区森林組合等との連携による竹材確保の仕組みの構築
- ・雇用の創出 16人(うち長期16人)



今後の方向性

- ・竹産業の集積化に向けた県内全域からの竹材供給体制の確立、新製品の開発及び販売促進

● 近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進 【高知市】

体験型旅行商品（とさ恋ツアー） <楸城西館>

取組の内容

- ・第2種旅行業免許を活用した新商品の開発
- ・ガイドブックの発行(多言語化)
- ・県下全域での旅行商品づくり

主な成果

- ・新たな旅行商品の造成(累計) 32コース(H23)→56コース(H27)
- ・利用客数 1,118人(H22)→3,300人(H27)

今後の方向性

- ・さらなる旅行商品づくりと情報発信



● 「まるごと有機プロジェクト」による中山間地域の振興 【高知市】

まるごと有機プロジェクト <(財)夢産地とさやま開発公社>

取組の内容

- ・有機栽培のショウガやユズを使った加工商品の製造・販売
- ・新たな加工品(菓子類)の開発
- ・有機野菜の生産・販売
- ・四方竹の生産及び加工・販売
- ・土づくりセンターでの有機堆肥の生産・販売

主な成果

- ・販売額 84,000千円(H22) →137,000千円(H27)

今後の方向性

- ・新たな加工施設の整備
- ・さらなる販路の開拓及び拡大



● 春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上 【高知市】

地元の農産物を使った加工品 <(有)スタジオ・オカムラ等>

取組の内容

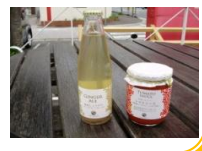
- ・地元農家と連携し、高品質な飲料・ソース等加工食品を製造
- ・首都圏の百貨店・高質系スーパーでの販売
- ・ターゲットを絞ったブランディングと販路の確保

主な成果

- ・普及価格帯商品やOEM受注による売上の拡大
- ・販売額 0円(H22)→45,110千円(H26)

今後の方向性

- ・量的にまとまりのある新たな販路の開拓
- ・独自性の高い新商品の開発
- ・OEM生産の拡大



● 本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展 【高知市】

本家よさこいのブランド力確立 <高知よさこい情報交流館>

取組の内容

- ・高知よさこい情報交流館によるよさこいの歴史や文化のPR
- ・まちなかよさこいや全国各地のイベント参加などによる発祥の地PR

主な成果

- ・高知よさこい情報交流館入館者数 累計7万人達成(H26.4.28)
- ・累計16万人達成(H27.11.16)

今後の方向性

- ・年間を通してよさこいで集客できるしくみづくり



● 「食」の提供による地域農産物の消費拡大 【高知市】

JA女性部による総菜づくり <JA高知市女性部>

取組の内容

- ・総菜等の加工施設の整備(H25)
- ・産振アドバイザーの活用による直販店舗の運営改善等

主な成果

- ・販売額 1,500万円(H22)→2,513万円(H27)
- ・雇用の創出 6人(うち長期6人)

今後の方向性

- ・メニューの拡大などによる直販所の運営強化
- ・さらなる雇用の拡大



● 県民性を活かした外国人観光客受入態勢の充実 【高知市】

外国人観光客への高知流おもてなし <高知おせっかい協会>

取組の内容

- ・中心商店街等の店舗におけるメニュー等の多言語化の推進
- ・「外国人観光客に対する接客講座」の開催
- ・大型クルーズ客船寄港時の観光案内

主な成果

- ・おせっかい協会によるメニュー等の多言語化店舗数 0(H26)→35店舗(H27)
- ・オセカイスト認定者数 0(H26)→109人(H27)

今後の方向性

- ・各店舗における外国人観光客に対する接客レベルの向上
- ・メニューの多言語化店舗数の拡大
- ・オセカイスト認定者数の拡大



高知市地域アクションプランで設定した
数値目標等に対する評価



重点的な対応が必要と思われるものについては、市町村や関係団体等との密接な連携のもと、課題の克服やさらなる成果の拡大に取り組む。

・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により4段階評価を実施
(目標の設定がないものや客観的に評価できない定性的な目標については、「—」としている)

区分	評価基準	件数
A+	<ul style="list-style-type: none"> 数値目標を達成したもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が100%以上 数値目標ではないが客観的に評価ができる目標を達成した(または達成する見込みがある)もの 	9件
A	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できたもの、または状況を改善できたもの <ul style="list-style-type: none"> 数値目標をほぼ達成したもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が60%以上100%未満 	4件
A-	<ul style="list-style-type: none"> 数値目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が60%未満 	7件
B	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの、または状況を改善できなかったもの	16件
—	目標の設定がないものや、客観的に評価できない定性的な目標を設定したもの	5件
計		41件

(主なもの)

項目	見つかった課題・方向性	今後の展開
浦戸湾を活用した観光振興	観光遊覧船の乗船客数の増加を目標に掲げ取り組んできたが、運行事業者が解散し、その後、新しい事業者による運航を開始した。再開間もないこともあり、乗船客数は減少(H22:5,899人→H27:802人)。今後、滞在型の観光客をさらに増やすためには、浦戸湾のもつ歴史や自然などの魅力を生かした体験型観光など、全国から観光客を呼べる観光地づくりを推進することが必要	◎平成27年3月から運行を開始した浦戸湾観光遊覧船の知名度や満足度を高め、誘客につなげる。 ・観光パンフレットへの掲載等による情報発信 ・城西館が行う「とき恋ツアー」の商品造成 ・御豊瀬漁港との連携による食の魅力を加えた遊覧コースづくり(特産のメヒカリや沖ウルメの活用) ・名所案内など船内サービスの充実 ・観光遊覧船の2隻以上での稼働体制の確立
外国人観光客の受け入れ態勢の整備	外国人観光客の満足度を高め、さらなる誘客につなげるためには、増加する外国人観光客や大型外国客船の入港に対応し、中心商店街や観光地における官民挙げた対策が急務	◎高知県民のあたたかい人柄やおもてなしの心を感じてもらうための仕組みづくりを行い、さらなる誘客につなげる。 ・高知市中心市街地における多言語化や外国人観光客受け入れの基盤整備 ・高知おせっかい協会による小売店舗などの商品表記の多言語化及び外国人観光客に対する接客力の向上 ・体験型観光への誘客のための商品造成やPR
中山間地域対策	中山間地域の人口減少に歯止めがかからない状況を打開するため、雇用の場を創出し、移住定住の促進に取り組むことが必要	◎土佐山地域において竹を使った産業を興すことで雇用の場を創出し、その効果を他の地域にも波及させる。 ・土佐山地域に設置されたコスモ工場の第2工場及び(同)高知竹材センターを中心とした竹の集材の仕組みづくり ・土佐山地域、鏡地域、七ツ淵地域などの竹材を活用及び山林や農地の荒廃対策の仕組みづくり ・竹を活用した地域内で循環する産業(竹粉・筍など)の構築 ◎特産品等の地域資源を活用した多様な産業振興を図り、地域における所得の向上や地域ブランドの発信力を強化する。 ・ユズの残渣活用により所得を拡大 ・四方竹や梅などの地域資源を活かして観光客を誘致

※1つのアクションプランで複数の数値目標等を設定したものもあるため、上記の件数とアクションプランの数とは一致しない